

わがまち再発見!!

シリーズ 文化財の紹介

対馬市教育委員会 文化財課

0920(54)2341

『対馬の大切な文化財を守るために』

対馬市には、渡来仏や經典をはじめとする貴重な美術工芸品が多く伝わっており、国の重要文化財や長崎県・対馬市が指定した有形文化財になっています。

しかし、みなさんもご存じのとおり、昨年十月に峰町木坂海神社の銅像如来立像、豊玉町小綱観音寺の「観世音菩薩坐像」、それに厳原町豆酸多久頭魂神社の「大蔵経」の一部が盗難に遭いました。

これは、防犯体制の不備から犯行にあったと考えられますが、犯行手口は年々計画的かつ巧妙化しており、指定文化財のみならず、その他の多くの歴史的・文化的資料が盗難の危険にさらされているのが実情です。

盗難に遭い、失ってしまうと、無事に見つかる補償はありません。お寺のご本尊様や神社のご神体となっている地域の貴重な文化財の保護・保存は、私たち住民自身が関心を持ち、油断せず、日ごろから注意を向けることが一番の防犯につながります。

そのお手伝いとして、現在対馬市では、市内にある指定文化財の所有者や地区に、補助金を活用した防犯力メラ・警報装置等の設置をお勧めしています。また、より安全な対策と活用の

面から、資料館等への寄託もあわせてご紹介しています。

先祖から引き継いだ大切な文化的財産を守り、後世に引きついでいくためにも、協力して防犯に努めていきましょ。

* 寄託とは
当事者の一方(受寄者)が相手(寄託者)のために物を保管することを約し、それを受け取ることによって成立する契約のこと。

対馬市では、市内にある指定文化財の所有者や地区に、補助金を活用した防犯力メラ・警報装置等の設置をお勧めしています。

また、より安全な対策と活用の

また、より安全な対策と活用の



銅造如来立像 (海神社) 重要文化財 (国指定)

つしま図書館情報

つしま図書館 0920(52)3900

第148回芥川賞・直木賞受賞作品を貸出しています。貸出し中の場合は、予約もできます。

未返却本はありませんか？

ご自宅に、まだ図書館に返していない本がねむっていませんか？引越しなどで対馬を離れる方は、ご確認ください。

4月の休館日

休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

今月のおすすめ新着本

一般書	『自然農の果実づくり』 川口 由一 / 監 誰もが庭先や畑などで自然農による果物づくりがはじめられるよう、苗木の植えつけから果実の収穫・加工までのポイントを、自然農の実践者による取り組みをもとに詳しく解説する。	『武井壮の目指せ！百獣の王』 武井 壮 / 著 ライオン、アナコンダ、サメ、ツチノコ…。人類史上初の「百獣の王」の座に向かって奮進する男・武井壮と猛獣たちとのシミュレーションバトル29戦を収録。必勝サバイバル術を伝授する。武井壮語録やコラムも掲載。	『はなちゃんのみそ汁』 安武 信吾 / 著 乳がんで逝った母が、5歳の娘に教えたかったことは、強く生きる力だった。自らの死後を考え、闘病中に娘に料理を教えた母。結婚から娘の出産、そして最期の日々までを、生前のブログと夫の手記で綴る。レシピも収録。
	『ひめちゃんひめ』 尾沼 まりこ / 著 ぼくんちのとなりのひめちゃんはいつもひとりであそんでいる。「わたしはひとりだてさみしくなんかないし、ぜんぜんへいきなの」っていうけど、ほんとかな？「絵本テキスト大賞」第3回優秀賞受賞作。	『母と子の心がふれあう 12か月のたのしい行事えほん』 グループ・コロンプス / 編 かわいイラストで、親しみやすい。絵がしで、楽しく行事を理解できる。「絵がし 行事の説明」の2ステップで、わかりやすい。四季を感じられる歌、生き物、食べ物、天気も紹介。	『地球温暖化、しずみゆく楽園ツバル』 山本 敏晴 / 著 海面上昇により、しずんでしまうおそれがある島国、ツバル。子どもたちは、それをどのように受け止めているのか…。ツバルの子どもたちが描く「たいせつなもの」の絵と、ツバルの風景写真から、地球温暖化を考える。

第12回対馬少年の主張大会最優秀作品

「わかってほしい」

雑知中学校一年

勝見真生



「わかってほしい」

それは、私が授業で高齢者疑似体験を終えて、率直に感じたことです。視界がせまくなり、字がぼやけて新聞を読むのも不自由。装具をつけたせいで、足や手思ったように動かせないなど、日常生活を何不自由なく送っている私にとって今までにない動きにくさを体験しました。体験では他にも階段の昇り降りや、お互いに話したりもしましたが、手すりがないと歩きづらいことや、耳が聞こえにくく、声を大きくしないと会話もままならないなど、体験しないとわからない辛さを感じました。また、元気に歩いているように見える高齢者の方でも、体の重さや不自由さを感じているのだとあらためて気づきました。

私は、この体験を行うまでは高

齢者に対して、どちらかと言うと否定的な感情を抱いていました。例えば、親と一緒に車に乗っている時に、前の車が遅くてイライラしたことがあります。よく見ると、それは四つ葉のマークをつけた高齢者が運転していました。また、スーパーで買い物に行つてレジに並んでいたときに、小銭を探したりカードを探したりする動作が遅く、なかなか自分の番が回ってこないことにイライラしたことがあります。高年齢の方が多い対馬では、私のような気持ちになったことがある若い人は多いのではないのでしょうか。高年齢の体の不自由さを体験していなかったら、このようなイライラを私もずっと持ち続けていたのではないかと思えます。疑似体験後に担任の先生の話された言葉がすごく理解できま

した。それは、「子どもしかるな来た道だ、年寄り笑うな行く道だ」という言葉です。今までの私を素直に反省させてくれた言葉でした。

高齢者に対して考えるきっかけとなった疑似体験は、私の祖父との付き合い方を考えさせてくれるものでもありました。祖父は病気で入院しています。年をとって、ただでさえ体が不自由できついはずなのに、それに病気も加わるとどんなに辛いだろうと思います。自分なりに、祖父に優しく接してきたつもりでしたが、今振り返ってみると、それは十分とは言えないものだったかもしれませぬ。普通に会話をしているも、声が大きい割には聞き取りにくい祖父の話

私は笑つてごまかす反応を返すことがよくありました。耳も聞こえにくく、思つたように口を動かさない祖父。話す内容が聞き取りにくい理由を今では理解できませんが、その時の私はわかっていませんでした。高齢者に対する配慮。今では、意識できると思えますが、疑似体験をする前の私にはできなかったことです。

祖父のことから、他の高齢者のことも考えてみました。高齢者にとって私たちの住む対馬は暮らし

やすい社会といえるでしょうか。町の中では、スロープや手すりのついた階段の設置などバリアフリーが十分に整備されているわけでもありませんし、病気の時など病院から離れたところに住んでいる人たちは、病院に行くだけでもひと苦労です。高齢者に優しい町づくりを考えることが必要なのではないと思います。そのために、私が見んなに一番伝えたいこと。それは、最初に言ったように「わかってほしい」ということです。それは、高齢者の体や生活の状況を知った上で、町づくりを考えたり、接し方を考えたりしなければならぬということだと思います。高齢者だつて自分で望んで体を不自由にしているわけではありませぬ。私達も、必ず行く道なのです。そのような高齢者を私たち若者が支えない社会とは豊かな社会とは言えません。子どもからお年寄りまで誰もが笑つて生活できる社会を築くため、まずは知ることから始めましょう。そして、そこから一歩踏み出すことができれば、みんなが笑顔で暮らせるかと、私は信じます。

勝見さんは、対馬市代表として、平成25年度長崎県少年の主張大会に出場します。